

## 事例紹介

### 長崎県川棚町立 おぐし 小串小学校

## eライブラリ×タブレットで個に応じた学習を ～全学年が使える仕組みづくり～



小串小学校では、120台のタブレットPCを「全学年が使う」という方針のもと、授業やタブレットタイムなど学校全体で活用を進めています。

### 6年生 授業のまとめは先生からの課題

6年生の大森先生のクラスでは、算数のドリルで授業のまとめを行いました。

#### ★「初回正答率」を意識して

この日は算数「量と単位のしくみ」のまとめに、子どもたちは先生から出題されたeライブラリの課題を、**基本から順に全てのレベルの問題**に取り組んでいきます。

「子どもたちの基礎力は初回正答率に現れるため、いつも初回正答率を意識するように子どもたちに声掛けをしています。そして、その**初回正答率の履歴を見て、苦手な子には個別フォロー**をしています」と大森先生。

子どもたちは、**時間よりも正答を意識**しながら、1問1問真剣に問題を解いていました。



#### ★書いて答えを出す習慣を

「ドリルを解くときには、偶然な正解ではなく、画面上やノートに計算式を書き、**計算力を身に付けることも意識**しています」と大森先生。

ただドリルを解くのではなく「**書いて答えを導き、自分の意思をはっきり持って答えを出す**」ということを小串小学校の学習スタイルとして統一し、子どもたちには指導しているそうです。

デジタルとアナログを併用させ、自分の導き出した答えを確認する役割として、ドリルを効果的に活用していました。



▲ ノートに書いてから確認しています

### 藤田 哲夫 校長先生・情報担当 大森 常正 先生のお話

#### ～家庭学習の充実に、DL学習を取り入れたい～

eライブラリは算数や社会の授業、タブレットタイム、家庭学習など、幅広い場面で活用しています。eライブラリは計算や文章題の演習が繰り返してできることが良いと感じています。また、紙のドリルと違い、わからないときはヒントを見ながら、**最終的には必ず答えに辿りつき、空白で終わることがない**ことも良いです。



藤田 哲夫 校長先生



大森 常正 先生

「今後は家庭学習を更に充実させるために、家庭学習サービスと併用して、**DL(ダウンロード)学習を使って、タブレットPCの週末持ち帰り学習**を実施していきたい」という藤田校長先生の意向を踏まえ、様々な課題を校内で検証しながら準備を進めているところです。それには宿題のあり方をもう一度見直し、**平日はノート型の学習、週末は知識の習得や習熟のためのタブレット持ち帰り学習**を実施するなど、計画を立てて実施したいと思っています。

## 2年生 全員で今日の学習の確認！

2年生の酒井先生のクラスでは、授業の最後に大型TVにドリル問題を提示して全員で確認しました。

### ★ ドリルの答えはデジタルノートで発信！

2年生は算数「長さ」の授業のまとめに、ドリルを大型TVに提示し、全員で問題を答えていきました。

答えはタブレットPCのデジタルノートに記入します。答えが書いたら画面を持ち上げて先生に見せることで、2年生も**自分の意思を発信する活動**を大事にしています。

「ドリルを全体に提示することで、その**授業内に習得したいことを全員で確認**することができます」と酒井先生。今日学習したことが理解できているかを、その日の授業の中ですぐに確認できます。



▲ 先生に書いた答えを見せています

### ★ 小さなステップの繰り返しが大事

ドリルでは基本問題の5問を確認していきました。基本問題には難しい問題はなく、全体的に問題形式が似ているものが多いのが特徴です。「特に**低学年では小さなステップを繰り返し行うことが大事**です」と酒井先生。標準や挑戦問題は個別学習の際にしっかり確認し、**全体の授業で確認するには基本問題が適している**そうです。

授業の中にタブレットでのドリル学習を取り入れることは、子どもたちが**意欲を持って楽しく学習すること**と、より**多くの知識を補うこと**をねらいとしています。



▲ 友達と答え合わせをしています

## 運用 日課としてのタブレットタイム

### ★ 「タブレットタイム=eライブラリ」は共通認識

2人に1台分のタブレットPCを活かし、5,6年生は毎週木曜日の放課後、その他の学年は隔週金曜日の朝学習に「タブレットタイム」を設け、全学年がタブレットに触れる機会を作っています。そして「**タブレットタイム=eライブラリ**」を1つの共通認識とし、子どもも教員も全員がeライブラリを活用しながらタブレットPCにも慣れていきました。

特定の先生だけが使うのではなく、**学校としての日課に組み込む**ことで全員が使える環境を作り上げています。



### 教務主任 酒井 厚志 先生のお話 ～指導と整備の一体化を目指して～



酒井 厚志 先生

タブレットPCが導入されたことで、「いつでもどこでも」持ち運べるようになり、eライブラリも普通教室の授業や持ち帰り学習など、活用できる幅が広がりました。また、タブレットタイムを習慣化させることで、**低学年からタブレットPCやeライブラリに慣れる**ように取り組んでいます。eライブラリの使い方は、先生から子どもたちに伝えるだけでなく、**子どもたちの自主性や自己肯定感を伸ばす**ねらいのもと、6年生が1年生に教える時間を設けたりもしました。

まずは「触れて慣れる」ことが大事です。ICT活用には情報モラルなどの問題もありますが、禁止するだけでは何も始まりません。環境が整った今、次は教員がICTと従来の授業を組み合わせた指導方法や情報モラル教育を見直し、「**指導と整備の一体化**」を目指していきたいと考えています。